2017.4.25
vol.51

ひかり苑 NOW

生きがいのある生活をめざして

障害者支援施設 ひかり苑
〒743-0051 光市岩狩3丁目1-2
TEL(0833)77-2000
[URL] http://www.hikarien.jp

歩みよる力

施設長
國澤　宗厳

私たちの支援と言う仕事において、身につけておかなければならないことは多くありますが、その一つに「歩みよる力」というものがあります。

相手に対しての優しさや思いやりの気持ち、少しでも心豊かに過ごせるようにと思っていても、正しく歩みよることができなければ、誤解を招き成果はあがりません。

また、いくら技術や知識があっても、相手に対して「歩みよる力」がなければ実力は発揮できません。相手に対する思いが強ければ強いほど、「歩みよる力」も強いものでなくてはなりません。

この「歩みよる力」とは、一つには共感していくということが言えます。しかしながら、本心から相手の事を自分のことのように感じていくことはなかなか難しいことだと言えます。

よって、共感していくとは、相手の事をわかってあげよう、理解していこうと努力していく事だと思います。そして、そのことをどの様な状況においても、「努力しつづける」ことを出来る人が「歩みよる力」を持っている人ではないかと思います。

ある本に「なぜ人間だけが他者を助けるのか」という論説があります。解釈はそれぞれだと思いますが、一つには、人は一人では生きて行けず、絶えず支え合いを必要としていることが考えられます。そして、この支え合いの時こそ、誰もが人間として持ち備えている「歩みよる力」が最大限に発揮されている時だと思います。

私たちの、人が人をサポートする仕事は、施設を利用される方は元より、職員間においても、相手に対して「歩みよる力」をどれだけ持っているかで、その思いの届き方は変わります。

日々研鑽を積む中、まだまだ与えられた課題は多くあり、生み出すべき課題も多くありますが、私たち職員が施設を利用される方のお手本となり、福祉人としての使命感を再確認しながら、これからも取り組んで参りたいと思います。

放課後等デイサービスセンター ひかり苑

放課後等デイサービスセンター ひかり苑 ～1年を振り返って～

放課後等デイサービスセンターひかり苑 主任　海田　育宏

ひかり苑の放課後等デイサービスセンターひかり苑が開所して1年が経ちました。**「明るく、楽しく、安心して、自分のペースで！」**をスローガンに皆の笑顔が生まれる活動を常に模索してまいりました。

ご利用児童・生徒の生活能力の向上の為の訓練では、日常生活動作の見直しが意外と面白い活動となっています。手を洗ったり、ゴミを捨てたり、ドアを開け閉めすることなど、普段から何気なく行っている動作を改めて確認すると人それぞれ、10人いれば10通りのやり方があるんだなと気付かされます。出来ているつもりになっている動作一つ一つに、しっかりと意識を向ける事が出来るようになる事は生活能力の向上に繋がるのではないかと考えています。

互いに手と足を止め相手の顔を見て挨拶をすると照れたり、変に緊張したり、ドアの手元をみて必要以上にゆっくりと開けるとなんとなく笑えたり、まじめに活動しながらも楽しさはどこからでも生まれます。ご利用される児童・生徒の皆様に楽しさや魅力のある活動を一緒に作り出していきたいと考えています。

相談支援センター ひかり苑

相談支援センター ひかり苑　～1年を振り返って～

相談支援センターひかり苑 支援室長･相談支援専門員　大濱　和則

平成28年4月より障害者支援施設ひかり苑で相談支援の事業所を立ち上げ1年が経過しました。おかげ様で、障害をもたれた児童の方から成人の方まで、多くの方を担当させて頂き、皆さんの「想い」に触れる事ができました。

相談業務は、障害を持たれた方を直接支援していくというより、その方の「想い」を福祉サービスに繋げる業務で、人生をコーディネイトしていくとも言われています。しかしながら、人間必ずしも1人で生活していくわけではありません。本人のみならず、ご家族の「想い」、また本人を支える支援者の「想い」、そのような沢山の「想い」を理解してこれからも業務に励んでいきたいと思います。

障害関係で何かお困りや質問などございましたら、まず相談支援センターにご連絡下さい。皆さんの「想い」お待ちしております。

障害者支援施設 ひかり苑 の理念

生きがいのある生活をめざして、三つの理念のもと、取り組んで参ります。

人間の尊厳	共感する心	専門職として、常に相手の立場にたって考え、ご利用者と共感できる姿勢を目指します。
	謙虚な心	専門職として、地域福祉の向上を目指し、ご利用者、地域から学ぶ謙虚さを大切にします。
	感謝する心	専門職として、経験を積めること、働けることに対して感謝の気持ちをもちます。

活動報告

★やよい幼稚園 交流会

園児の皆さんと
ミュージックケアを行いました。

★もちつき・のど自慢大会

寒い中ボランティアの皆様ありがとうございます。沢山のおいしいお餅ができました。

★クリスマス会

一緒に果物いっぱいの大きなケーキを作りました。
作ったあとは、みんなで美味しくいただきました。

★どんと焼き

今年も健康に過ごすことができますようにと
みんなで願いをこめて!!

★成人式

今回は3名の方が成人を迎えられました。おめでとうございます。
来賓には、光市長代理 光副市長 森重正一様・光市社会福祉協議会 会長 西川公博様・上島田地区社会福祉協議会会長代理 副会長 岡田元昭様・三井地区社会福祉協議会会長 松本年正様にご臨席戴き、大変盛大な式となりました。

★光ライオンズクラブ交流会

今年も光ライオンズクラブの方に
来て戴き、とても楽しい時間が
過ごせました。

活動紹介

心理リハビリテイション

心理リハビリテイションとは…?

日々の生活の中でみられる「からだ」や「こころ」の様々な困難や課題の根幹に「からだの硬さ」があると考え、その「からだの硬さ」を解消していく過程で、自身の「からだ」の課題に向き合いコントロールしていくことで、「こころ」の困難や課題も改善されていくとする心理療法の一つです。
「からだ」と「こころ」は密接な関係にあり、「からだ」の状態改善に取り組むことは同時に「こころ」にも働きかけることになるとの考えから「心理」とついています。
日常生活での「立つ」「座る」「歩く」「食べる」などの自発的に体を動かして行う事を「動作」とし、この「動作」は「こころ」と一体になった「からだ」の動きであり、単なる「からだ」だけの動きとは区別して捉えています。

本活動は、日本リハビリテイション心理学会が認定する、「心理リハビリテイション・トレーナー」資格を有している職員が担当しています。
活動内で行っていることは、主に上半身のストレッチをするように体をひねったり伸ばしたりしながら、動きの中で体の緊張を緩めることに取り組んでいます。その中で、自分の緊張している体が緩んでいくことや、緩んでいくことに気持ちよさを感じることで、さらに体を緩めることへの意識を持つことを目指します。このように、身体的な状態改善を図りながら、取り組みの中で出てくる気持ちの変化も同様に重要だと考えています。

多くの方は「からだの硬さ」があっても、そのことに気付かず、動ける範囲内での動きで生活を続けます。長年の習慣が「からだの硬さ」を助長させることがあっても変える意識が持てず、より「硬さ」は増してしまいます。その習慣に対して、少しでも意識を変えたいと思い取り組んでいます。

サンシャワーバンド

今年も三島さくら祭りにサンシャワーバンドが参加させていただきました。パワフルな歌声と元気いっぱいのバックダンサーで会場を盛り上げました。また皆さんに元気を届けたいと思います!!